

# 来福くん通信

## かわら版



Vol. 大会最終号

発行  
全国大会 福島大会  
広報文書部会

らいぶくん  
来福君  
福島に来る  
福が来る!



編集後記

福島がらみSがらみ

この「かわら版」は福島県社会福祉士会の県北方部で作成を担当することになりました。

### 障壁を越える力を高めた！ 〜共に歩んだ全国大会



福島県社会福祉士会

会長 島野光正

様々な場面で「当たり前前に生きていくことが脅かされ、障壁が拡大していく社会に警鐘を鳴らし、一人ひとりが尊厳を持って生きていく社会を再度考え、社会の障壁を取り除くことを全国の会員の皆様とここ福島で考えられたのは幸せであったと思っています。そして、石川県から愛媛県と繋いだ**全国大会のバトンの重みをこれからも福島県は持ちつひけします。**

### そして、福島から山口へ

引継式では、福島県社会福祉士会島野光正会長から山口県社会福祉士会白石会長に大会が引き継がれました。来年は**7月7・8日**、**山口市**でお会いしましょう。



引継式の様子

### 私たちの魂の分科会 福島特別分科会

熱っぽく語る発言者

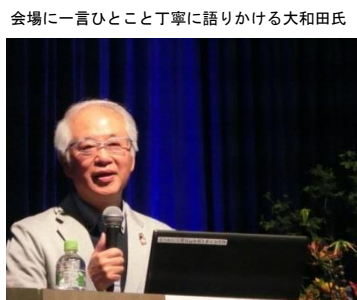


二日目の分科会は8つに分かれて開催され、各分科会において活発な発表と意見交換が行われました。

その中の一つ福島特別分科会「福島県のソーシャルワーカーと専門職団体の実践から考える」では震災後に専門職として自身自身に向けられる「**これでいいのか？**」「**今、何ができるのか？**」「**どう問いかけの狭間で揺れながら行ってきた震災後の活動について、それぞれの立場から報告がありました。**」そして、全国の同胞とともに、私たちはどこにいても「**支援**」とは何かを考え続け、行動に移し、これからも被災者に寄り添うことを確認しあいました。

### 震災後の寄添い活動から 社会福祉士の原点を再考

記念講演  
「福島は今とこれからを語る」  
フリーアナウンサー大和田新 氏



東日本大震災発生時に、350時間にもおよび放送から人に伝えられたこと、その後も大和田氏が多くの人に寄り添ってきたお話は、**私達社会福祉士の心を大きく揺さぶりました。**

（会場からは涙をすすする音が止まりません）今後、社会福祉士はどのように考えて、どんな行動すべきなのか？それぞれの社会福祉士の原点回帰の時間となりました。



広報文書部会のメンバー

はじめは手探りでしたが「**全国の社会福祉士とつながりたい**」「**少しでも福島を楽しんでいただきたい**」という想いを胸に、それぞれの仕事をしながら、プライベートの時間を割きながら、何度も協議や作業を重ねて最終号まで作成することができました。かわら版を作成するにあたり、協力していただきました。ここで全国の皆様にお礼と感謝の気持ちを伝えさせていただきます。



# 全国の同士からの MESSAGE (メッセージ)



被災地ツアーに参加して様々な障壁は、私たちにとっても「よくわからない」「よくみえない」ことだらけ。だからこそ真摯に向き合うことの大切さを強く感じました。貴重な体験ができ、深く感謝いたします。

(愛媛県 村尾智幸さん)



社会福祉士はすべての人がソーシャルワークを身近に経験できる社会づくりを先導して障壁をなくしていこう！

(佐賀県 荒木千史さん)



「社会福祉士としてソーシャルワークの力を高める」「ソーシャルワーカーの力を伝える」このことについて改めて気付かされた大会でした。福島の皆様ありがとうございました。

(宮城県 折腹実己子さん)

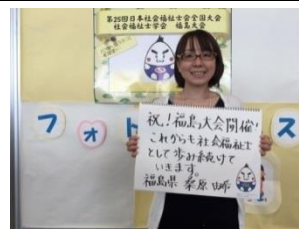


「障がい者の地域生活支援研修(宮城県社会福祉士会)」を宮城県で行います。9/17、9/18、11/4みなさんの参加をお待ちしています。(宮城県 小林さん、三上さん、千葉さん)



社会福祉士への期待の拡がりとそれに対する我々の課題が可視化できた大会だったと思います。ありがとうございました。

(岩手県 高橋岳志さん)

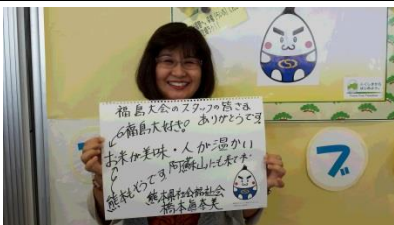


社会福祉士として何ができるのか？考えさせていただきました。あらゆる問題を抱える方々と援助者として向き合いたいと思います。

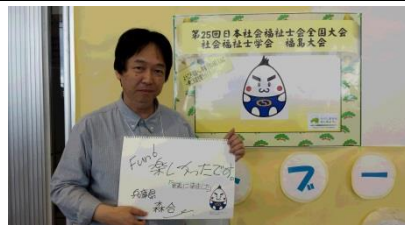
(福島県 桑原由希さん)



(新潟県 丸山径世さん)



(熊本県 橋本真奈美さん)



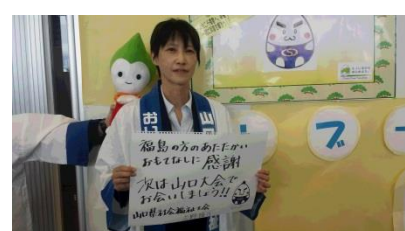
(兵庫県 森合真一さん)



(愛媛県 渡邊朗さん)



(神奈川県 湯川太一さん)



(山口県 上野綾乃さん)